

二〇〇五年度大会の概況

日本思想史学会二〇〇五年度大会は、十月二十九日（土）・三十日（日）の両日、東京大学駒場エキャンパスを会場として開催された。

第一日目は、「転生する神話—『日本思想史』は描きうるか—」をテーマにシンポジウムが行われた。

趣旨説明
（東京大学） 荻部 直
報告

神話の変奏と国号「日本」—テキストの運動のなかに
転生する神話—
（東京大学） 神野志隆光

近世日本の神話解釈—孤独な知識人の夢—
（愛知教育大学） 前田 勉

「古伝」から「神話」へ—神話をめぐる近代の起点と
行方—
（東京理科大学） 清水 正之

コメント
（日本女子大学） 磯前 順一

（大阪府立大学） 山東 功
（米沢女子短期大学） 荻生 茂博
（愛知県立大学） 樋口 浩造

第一日目のシンポジウム終了後、総会が行われ、評議員会より二〇〇四年度事業報告および決算報告がなされ、それぞれ承認された。続いて二〇〇五年度事業計画および予算案が提出され、それぞれ評議員会案通り決定された。
引き続き、東京大学駒場ファカルティハウス内にて懇親会が開催された。

第二日目の研究発表、パネルセッションの発表者と発表題目は以下のとおりである（副題省略）。

〈第一会場〉
研究発表

- 1、『大化改新詔の信憑性』（井上光貞氏）の史料批判
古田 武彦
- 2、円爾弁円の仏語観
（武蔵大学） 菅 基久子
- 3、一条兼良の朱子説受容
（成城大学） 田村 航
- 4、惣村の王孫思想

5、『草賊前後記』と「非正統思想」
(日本学術振興会特別研究員) 永井 隆之
(東京大学大学院) キリ・パラモア

パネルセッション…近世前期の思想論争

コーディネーター・司会 大桑 斉

『儒仏問答』における仏教批判と仏教からの反論

近世前期における儒教からの仏教批判
(立命館大学) 前田 一郎

江戸時代前半期の儒仏論争書の諸相
(立命館大学) 石黒 衛

仏教批判への仏教側の対応
(玉川大学) 山本 眞功

パネルセッション…日本の「戦後」を考える
(日本学術振興会特別研究員) 三浦 雅彦

コーディネーター (愛知県立大学) 樋口 浩造
司会 (神戸市外国語大学) 長 志珠絵

「靖国問題」が問いかけるもの

(愛知県立大学) 樋口 浩造
真宗の戦中と戦後 (真宗大谷派教学研究) 福島 栄寿
ドイツ現代史から見た「靖国問題」
(立命館大学) 高橋 秀寿

〈第一会場〉
研究発表

1、浅見綱斎の『文公家礼』実践とその礼俗観
(京都大学大学院) 田 世民

2、新井白石の『鬼神論』
(東京学芸大学) 鈴木 孝子

3、叫ばれる「正名」
(東北大学大学院) 大川 真

4、伊藤仁斎における性の位置と人性論の役割
(早稲田大学) 阿部 光磨

5、葉隠武士道論
(神奈川大学) 相原 耕作

6、古文辞学と徂徠学
(東北大学大学院) 楊 小江

7、荻生徂徠の漢詩における擬古と「情」
(京都大学大学院) 李 基原

8、丁若鏞の思想空間における徂徠学
(東洋大学) 坂本 頼之

9、海保青陵の『韓非子』理解における折衷的傾向
(関西大学) 陶 徳民

パネルセッション…近代東アジアにおける政治思想の形成と
西洋 コーディネーター・司会 (関西大学) 陶 徳民

コメントーター (岡山大学) 高橋 文博
王韜の西洋観 (関西大学) 陶 徳民

安昌浩の天の観念とキリスト教

(鳥根県立大学) 井上 厚史

辺境のキリスト教と日本の近代

(甲子園大学) 一色 哲

〈第二会場〉

研究発表

1、日本近代化における合理観の変遷

(京都大学) 水野 友晴

2、明治神祇行政による祭祀者の変容

(学習院大学大学院) 小平 美香

3、穂積八束と消えた「家屬」

(東京大学大学院) 與那覇 潤

4、大西祝における理想の領域

(学習院大学大学院) 谷川ちひろ

5、村岡典嗣とキリスト教

(東北大学) 池上 隆史

6、富永徳磨と吉野作造

(宮城学院中学校高等学校) 今高 義也

7、第一次世界大戦後の吉野作造の中国論

(名古屋大学大学院) 趙 暁靚

8、戦時期大熊信行の思想とラスキンの経済学

(東京大学大学院) 今田 剛士

9、岡倉天心と日本ロマン派

金子 敏也

10、ロマン派体験の思想史

(日本学術振興会特別研究員) 平野 敬和

11、戦後直後の沖繩知識人における歴史認識の再構築

について (立命館大学大学院) 櫻澤 誠

12、日本環境思想史と南方熊楠

(長崎大学) 佐久間 正